

令和5年度 学校経営方針

1 本校の状況

本校は、明治6年10月に弘前市で最初の小学校「一番小学」として開校し、今年度、創立150周年を迎える歴史と伝統のある小学校であり、本市の小学校教育の先駆的な役割を果たしてきた。また、佐藤紅緑氏、石坂洋次郎氏など、多くの著名な先達を輩出している。

藩政期より武士や僧侶、町人の居住区画だったこともあり、数代にわたりこの地域で暮らし続けている家も多い。地域の教育に対する関心は高く、本校へもとても協力的である。保護者も教育活動を理解し支援し、PTA活動も非常に活発に行われている。

児童は明朗で素直な子が多く、昨年度の児童アンケート結果を見ると、「友だちとなかよくしている」は100%、「友だちにやさしくしている」は98%、「係の仕事をきちんとしている」は97.4%と高い評価であった。また、学習面では「自分のめあてに向けて、進んで勉強している」は96.7%、宿題や一人勉強をがんばっている」は96%で、その成果は、1月に行ったCRT学力検査にも表れており、すべての学年、すべての教科で全国平均を上回っていた。「学校に来るのが毎日楽しい」が96.1%と、ここ数年では最も高い数値になっていることから、児童の充実した学校生活が伺える。

さらに、昨年度の保護者のアンケート結果を見ると、「子どもはやさしきや思いやりの心が育ってきている」が100%、「子どもは、マナーやルールを大切にし、みんなが気持ちよく生活できるようにしている」「学校は子どもの努力を認めている」が98.1%、「子どもは、学校や学級でよい友達関係にある」「学校は子どもをよく理解し、個に応じた指導をしている」「子どもは自分の役割を最後までやり遂げようとしている」が96.8%であり、高い評価を得ている。

官公庁の建設や拡張に伴う民家の減少、少子高齢化のために本校の児童数は年々減少し、今では学年20数名の小規模校となった。小規模校であることは、一人一人の児童に目が届きやすく、きめ細かい指導が可能である反面、6年間同じ学級集団で学校生活を送ることで、人間関係が狭いものになってしまうことが危惧される。

児童の人間関係を広いものにしていくためには、学級単位の活動だけではなく、縦割り班活動や他学年との交流を活発なものにし、より多くの児童とのふれあいの機会をもっていくことが必要であると考えます。

また、本校の周辺には、弘前公園や禅林街をはじめとした伝統的建造物や文化財、市立図書館、市立博物館、りんご公園などの公共施設が数多く存在し、徒歩での移動が短時間で可能である。このように恵まれた環境を生かし、校外での体験的な学習を多方面にわたって、今日まで展開してきた。

今年度、創立150周年を迎える本校は、その歴史を振り返り、母校に対する愛着と誇りを培い、さらに夢に向かって未来に羽ばたくきっかけになるような児童の活動を展開していきたい。本校のもつ“強み”を最大限に生かし、“弱み”を補っていく教育活動に今年度も取り組んでいきたいと考える。

2 経営の方針

互いに響き合う、みんなの笑顔があふれる学校 ～ 学び合う・活かし合う・認め合う ～

一人一人の子どもが自分の考えや友達のことをお互いにやり取りする学び合う場や自分の個性を活かせる場を充実させたい。その中で、一人一人のよさや違いを認め合える関係性、学ぶことの楽しさや喜び、さらには集団の中で認めてもらえたという存在感・有用感を味わわせたい。その積み重ねをこれからの社会を生き抜く力を育むための基盤と捉えて、お互いが響き合う関わりを大切に、みんなの笑顔があふれる学校をめざしていきたい。

子どもにとって…通いたい学校でありたい
地域にとって…応援したい学校でありたい

保護者にとって…通わせたい学校でありたい
教職員にとって…働きたい学校でありたい

3 基本方針

(1) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、教育目標及び教育課題を地域、家庭と共有し、課題解決と教育目標の実現に向けた教育実践を進める。

⇒ 創立 150 周年記念事業や行事を今年度の教育実践の最良の機会として捉える

(2) 学習指導要領の主旨に基づき「主体的・対話的で深い学び」のある授業へと改善を進める。

(3) 児童の自主的・実践的な活動の充実により、所属感と満足感を得られる学校生活の構築に努める。

(4) インクルーシブ教育システム構築に向け、特別支援教育体制の拡充と基礎的環境整備、合理的配慮の充実、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりに努める。

(5) 保護者との信頼関係を構築し、保護者が児童を安心して通わせられる学校づくりを進める。

4 「四中クインテット」目指す15歳の姿

- ・進んで学習に取り組み、夢や目標の実現に向けて努力する人
- ・礼節と思いやりの心を持ち、よき人間関係を築く人
(思いやりの心をもって仲間づくりができる人)
- ・命を大切に、めあてを持って心身をきたえる人

【中学校のみ】

- ・貢献に誇りと喜びを感じる人

5 学校教育目標

夢に向かって未来に羽ばたく 朝陽のように明るく元気な子

○よく考え進んで学ぶ子 ○友達を思いやり協力する子 ○健康でたくましい子

令和2年度制定

6 努力目標

- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得・活用し，自ら学び，考え，表現する子どもの育成に努める。
- (2) 思いやりや命を大切にする心を育み，共に生きる心豊かな子どもの育成に努める。
- (3) 進んで運動に親しみ，健康に対する関心や意識をもつ，健康たくましい子どもの育成に努める。

7 学校教育目標達成に向けた努力事項

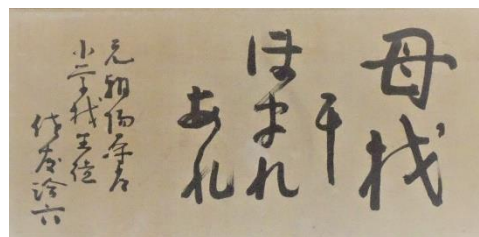
- (1) よくわかる，できる，楽しい授業の充実を図る。
 - ・学習の見通しをもたせ，授業のねらいを明確にし，学び合いを大切にした授業を展開する。
 - ・ICTの活用，教材や板書を工夫し，ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを進める。
 - ・教科等横断型指導のため，年間指導計画（カリキュラム・マネジメント）の工夫を進める。（体験学習・地域教材の活用）
- (2) 自主的・自治的な活動の中で，一人一人の個性を活かしながら豊かな心を育む。
 - ・どの子にも居場所のある学級，学年，学校づくりを進める。
 - ・学級活動の継続的指導の充実に努める。
 - ・特別支援教育体制の充実と教育環境の整備に努める。
 - ・特別の教科 道徳を要としながら，全教育活動の中で思いやりの心，他者と共生し，よりよく生きようとする道徳性を養う。
- (3) 体力づくりと健康・安全教育の充実に努める。
 - ・体力づくりへの日常的な取組に向けた実践を計画的に進める。（マラソン・なわとび）
 - ・家庭との連携をとおして生活リズムの確立に努める。
 - ・地域との連携を図りながら安全な生活を送るための安全教育の充実に努める。
- (4) 創立150周年記念への取組をとおして，社会を生き抜く力を育むことに努める。

「創立 150 周年を迎えるにあたって」

1 母校に対する愛着と誇りを培いたい ～過去を振り返る～

明治6年(1873)10月1日、弘前の一番小学として創立した本校は、創立150周年という節目の年を迎える。これまでに多くの有為な人材を輩出してきた本校であるが、その陰には積み重ねてきた150年の歴史・伝統があることを忘れてはならない。開校当初は、学問の素養のある者が多く、学力を考慮して組分けし、随時試験を行い昇級させるという教育課程からスタート。女子に学問不要という観念が強い時代に、他の公立小学に先駆けて女子生徒48名を入学させたり、県内で最初の女子教員の採用も行った。大正から昭和にかけては、野球部が活躍し、全国大会に幾度も出場している。同時に、音楽教育にも力を入れ、コーラス大会やバイオリン、ピアノ演奏会を催し、地域に公開している。戦後は、県内で最も早く社会科の授業を導入した。昭和から平成にかけては、水泳、スクールバンド、ミニバスケットボールの各部の活躍、さらには全国に注目された子ども銀行の活動・・・これらの進歩的な教育は、弘前市はもとより県内の小学教育をリードするものであった。明治・大正・昭和・平成を通して全国各地から視察が訪れている記録からも、それぞれの時代における本校の教育が果たす役割、そして、それは単なる歴史の出来事ではなく、150年の伝統として朝陽小学校に根付いているものとして受け止めなければならない。

それぞれの時代に朝陽で学んだ先輩方の心意気と誇りを引き継ぐべく、現在、朝陽小学校で学ぶ子どもたちに150年の歴史を振り返って、「母校にほまれあれ」(佐藤紅緑)の精神を培う一年でありたい。

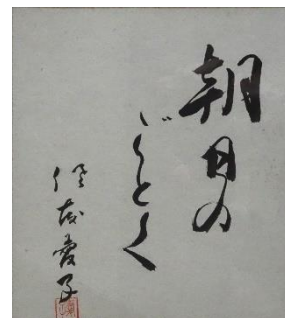


佐藤紅緑 明治12年9月本校入学。19年7月卒業。

2 自己存在感を高める場として捉えたい ～今を生きる～

小学校での6年間は人として生きていくための基礎を培っていく時間である。自分という一人の人間を確立させる時期として、現在の自分の姿・存在をしっかりと理解させ、さらに高めていくことで、自立を促すことが大切である。

そのためには、朝陽小学校でのすべての活動を舞台と捉え、その舞台上で子どもたち一人一人が、自分の今の姿を堂々と表現できることが自立への第一歩であると考えている。その積み重ねが自己存在感を高めることにつながり、やがては自己有用感を生み出すだろう。社会に貢献できる自立した人間の育成が教育の大きな使命の一つであると考えているならば、150周年という節目に巡り合ったことは大きなチャンスでもある。子どもたちが成長できる最高の舞台を与えてもらったと捉え、節目の行事が続くこの一年、子どもたちが自らの姿を表現できる場がたくさんあることに感謝したい。たとえ1回失敗しても、すぐ次の舞台が待っている。教師として「雀の子 飛ばんとしては 飛ばんとす」(佐藤紅緑)の親心で子どもたちを見守っていきたい。そして、「朝日のごとく」(佐藤愛子)子どもたちの姿が輝く一年にしたい。



父佐藤紅緑の筆による扁額「朝日のごとく」は昭和24年の火災で焼失。長女佐藤愛子より昭和48年10月1日創立百周年を記念して本校に寄贈される。

3 夢に向かって未来に羽ばたく「きっかけ」にしたい ～未来に向けて～

本校の教育目標は、「夢に向かって未来に羽ばたく 朝陽のように明るく元気な子」である。夢について、本校の卒業生であるルポライター鎌田慧氏は次のように述べている。

「子どもは夢を食べて大きくなる。子どもの特技は、夢をもつことである。夢のない子はいない。たとえそれが、ごくささやかな夢であったとしても、子どもは目をかがやかせ、胸をふくらませ、まえにむかってはしっていく。

夢はよろこびのエネルギーである。

子どもの夢は、この地球に生まれてきたことにたいする感謝からはじまっている。だから、最初の夢は、ひとにたいする憧れとしてあらわれる。

あのひとのようになりたい、という希望は、尊敬と信頼のまなざしとなってあらわれる。それが父親であったり、母親であったりするのには、感謝のあらわれだからである。

そのあと、なにかになりたい、という希望があらわれる。なにかになりたい、とは、そのことによって、ひとの役に立ちたい、世のなかに貢献したい、という子どもの理想なのだ。

わたしがつくった「夢をあるく」という言葉は、夢を追ってあるいていくということであり、雲のうえにいるような夢にふける、幸福感のことでもある。

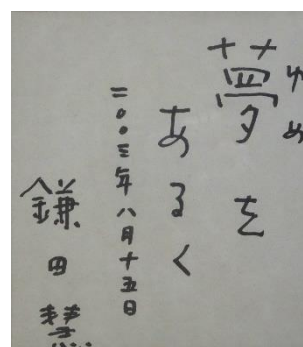
最近の子どもたちの夢が小さくなった、といわれている。子どもたちが自由に夢を語れないとしたなら、それは大人の責任であり、ふしあわせな社会のありかたである。

夢みる生活といえば、現実しらず、と批判されたりする。しかし、夢の大きさが人間を大きくする。夢とは、自分の生活への期待だけではなく、ひとびとのために役立ちたい、という理想のことでもある。

さあ、子どもたちよ。夢にむかって、まっすぐにあるいていきなさい。」

150周年記念事業には、保護者や地域の人々が未来を生きる子どもたちに託す願いが込められていることを朝陽小学校の子どもたちが感じ取ってくれば幸いである。その願いが子どもたちの夢の実現の後押しになれば、この上ない。

これからの変化の激しい、先行き不透明な時代を生き抜くには、夢は大きな力になるに違いない。150周年記念事業が続くこの一年、これをきっかけに子どもたちが「夢をあるく」（鎌田慧）一年になることを願いたい。

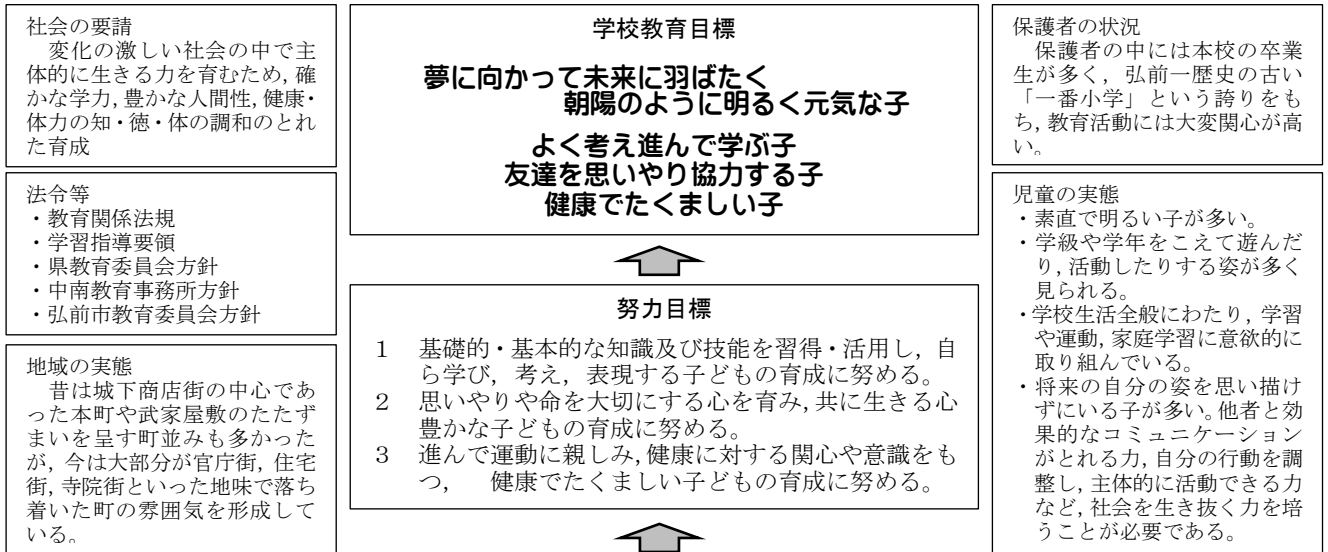


鎌田慧 昭和20年4月本校入学。26年3月卒業。

8 めざす教師像

- あ 愛情と情熱をもって子どもに接し、使命感と誇りをもつ教師（教職に対する強い情熱）
- さ 更に自分の力量を高めていこうとする教師（専門家としての確かな力量）
- ひ 広い見識と豊かな人間性をもち、心身ともに明るく健康な教師（総合的な人間力）

9 学校教育目標の具現化構想図



互いに響き合う、みんなの笑顔があふれる学校 ～ 学び合う・活かし合う・認め合う ～

一人一人の子どもが自分の考えや友達のお互いにやり取りする学び合う場や自分の個性を活かせる場を充実させたい。その中で、一人一人のよさや違いを認め合える関係性、学ぶことの楽しさや喜び、さらには集団の中で認められてきたという存在感・有用感を味わわせたい。その積み重ねをこれからの社会を生き抜く力を育むための基盤と捉えて、お互いが響き合う関りを大切に、みんなの笑顔があふれる学校をめざしていきたい。

学校目標達成に向けた努力事項

<p>よくわかる、できる、楽しい授業の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見直しをもたせ、授業のねらいを明確にし、学び合いを大切に授業を展開する。 ・ICTの活用、教材や板書の工夫し、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを進める。 ・教科等横断型指導のため、年間指導計画(カリキュラム・マネジメント)の工夫を進める。(体験学習・地域教材の活用) 	<p>自主的・自治的な活動の中で、一人一人の個性を活かしながら豊かな心を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子にも居場所のある学級、学年、学校づくりを進める。 ・学級活動の継続的指導の充実を努める。 ・特別支援教育体制の充実と教育環境の整備に努める。 ・特別の教科 道徳を要としながら、全教育活動の中で思いやりの心、他者と共生し、よりよく生きようとする道徳性を養う。 	<p>体力づくりと健康・安全教育の充実に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりへの日常的な取組に向けた実践を計画的に進める。(マラソン・なわとび) ・家庭との連携をとって生活リズムの確立に努める。 ・地域との連携を図りながら安全な生活を送るための安全教育の充実に努める。 	<p>創立 150 周年記念への取組をとおり、社会を生き抜く力を育むことに努める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 母校に対する愛着と誇りを培いたい ～過去を振り返る～ 「母校にほまれあれ」 2 自己存在感を高める場として捉えたい ～今を生きる～ 「朝日のごとく」 3 夢に向かって未来に羽ばたく「きっかけ」にした ～未来に向けて～ 「夢をあるく」
--	---	---	--

めざす教師像

- あ 愛情と情熱をもって子どもに接し、使命感と誇りをもつ教師 (教職に対する強い情熱)
- さ 更に自分の力量を高めていこうとする教師 (専門家としての確かな力量)
- ひ 広い見識と豊かな人間性を持ち、心身ともに明るく健康な教師 (総合的な人間力)

学級目標・特別支援学級目標

	知育 (学)	徳育 (心)	体育 (体)
1年	よくはなしをきき げんきにはっぴょうする子	なかよく たすけあう子	げんきに うんどうする子
2年	よく話を聞き 元気にはっぴょうする子	なかよく たすけあう子	元気に うんどうする子
3年	めあてをもち 進んで勉強する子	思いやりの心をもち 協力し合う子	めあてをもち 進んで運動する子
4年	めあてをもち 進んで勉強する子	思いやりの心をもち 協力し合う子	めあてをもち 進んで運動する子
5年	問題意識をもち 意欲的に学習する子	思いやりの心をもち みんなのために働く子	ねばり強く 体力づくりにげむ子
6年	問題意識をもち 意欲的に学習する子	思いやりの心をもち みんなのために働く子	ねばり強く 体力づくりにげむ子
サポートルーム1	話をよく聞く子	友だちとなかよくする子	元気に運動する子
サポートルーム2	話をよく聞く子	友だちとなかよくする子	元気に運動する子
サポートルーム3	話をよく聞く子	友だちとなかよくする子	元気に運動する子
サポートルーム4	話をよく聞く子	友だちとなかよくする子	元気に運動する子
たんぼぼ学級	楽しく学習する子	なかよく生活する子	病氣回復につとめる子